

1 事業目的

市町村や事業所において、簡易な歯周病リスク検査と保健指導及び受診勧奨を行い、個人の意識の醸成や行動変容を図るとともに、本取組を県内に広く周知し、成人期における歯周病対策を推進することを目的とする。

2 事業内容

保健福祉事務所がモデル市町村及び事業所と連携し、健診受診者または健康教育等の参加者に対し、簡易な歯周病リスク検査と保健指導及び受診勧奨を実施した。

3 結果

(1) 市町村

玉川村の特定健康診査受診者に対し、歯科衛生士が簡易な歯周病リスク検査を行い、結果説明及び保健指導を実施した。また、陽性者に対しては、受診勧奨を行うとともに受診結果を把握するための葉書を配付した。

※葉書は、対象者が受診時に歯科医院へ結果記載を依頼し、歯科医院から管轄保健福祉事務所へ提出いただくこととした。

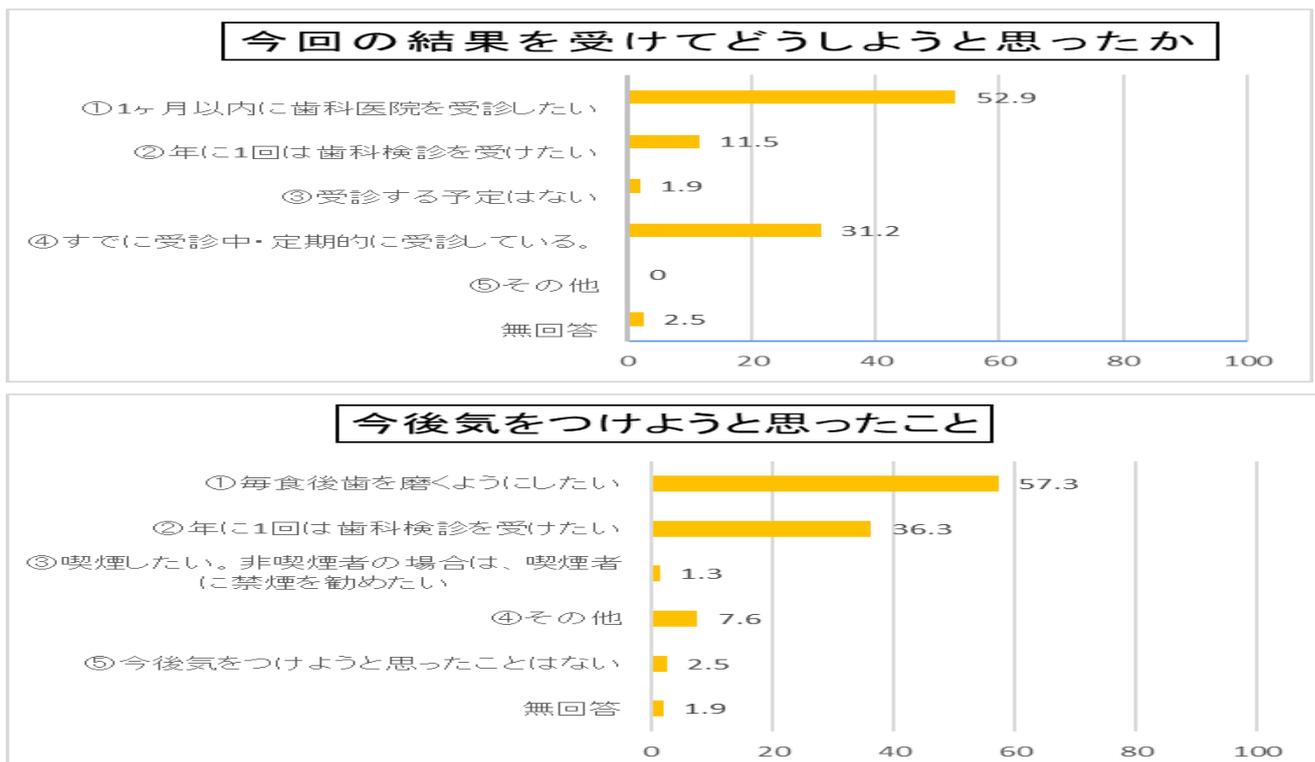
ア 歯周病リスク検査の実施結果及び陽性者の受診状況（令和8年1月7現在）

平均年齢 68 歳 男女比 4 : 6

対象者数	実施者数 ^{*1}	陽性者数	陽性者の受診者数
216	157	147 (93.6%)	46 (31.7%) (実施後4ヵ月)

*1 実施者は総入れ歯者等を除く

イ 事後アンケート



(2) 事業所

県北、県南、会津、南会津、相双の保健福祉事務所管内における6事業所の従業員に対し、保健福祉事務所の歯科衛生士が歯周病予防の講話と簡易な歯周病リスク検査を行い、結果説明及び保健指導を実施した。

また、陽性者に対しては、受診勧奨を行うとともに受診結果を把握するための葉書を配付した。
※葉書は、対象者が受診時に歯科医院へ結果記載を依頼し、歯科医院から管轄保健福祉事務所へ提出いただくこととした。

ア 歯周病リスク検査の実施結果及び陽性者の受診状況（令和8年1月7日現在）

実施地域（業種）	対象者数	実施者数	陽性者数	陽性率	陽性者の受診者数
県北（卸売）	51名	41名	28名	68%	—（実施後2週間）
県南（建設）	28名	28名	11名	39.3%	4（36.3%）（実施後3ヵ月）
会津（土木建設資材 レンタル・販売）	19名	19名	15名	78.9%	8（53.3%）（実施後4ヵ月）
南会津（建設）	15名	11名	8名	72.7%	1（12.5%）（実施後3週間）
相双（建設）	13名	13名	10名	76.9%	2（20%）（実施後5ヵ月）
相双（建設）	30名	30名	22名	73.3%	1（4.5%）（実施後2ヵ月）
合計	156名	142名	94名	66.2%	16（17%）（実施後2週間～5ヵ月）

イ 問診集計結果（抜粋）

- ・「歯や、歯ぐき、かみ合わせなど気になる部分がある、かみにくいことがある」 16.9%
- ・「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」 9.9%
- ・「お茶や汁物等でむせることがある」 16.9%
- ・「自分は歯周病だと思う」 38.0%
- ・「冷たいものや熱いものが歯にしみる」で、「時々しみる」44.4%。「いつもしみる」2.8%
- ・たばこを吸っている 25.3%

ウ 事後アンケート（抜粋）

- ・今回の結果を受けて、「年に1回は歯科検診を受けたいと思った」 48.6%
- ・ 「1か月以内に歯科医院を受診したい」 29.6%

(3) 第一種衛生管理者受験準備講習会受講者

<令和6年度歯周病予防推進事業（事業所）実施結果から>

- ・40代で歯周病の中リスク者が61.3%に増加していた。
- ・約2割以上の者が咀嚼に支障をきたしており、年代別では50代で増加する傾向にあった。
- ・50代以降でオーラルフレイルの項目が増加。（問診票の「半年前に比べて固い物が食べにくくなった」「お汁や汁物でむせる事がある」）
- ・喫煙者が半数以上であり、年代別では20～40代が該当し、50代以降も40%程度が喫煙をしていた。

⇒若年層においても咀嚼に支障をきたしている可能性がみられたため、若い世代からのオーラルフレイルの啓発が必要であり、令和7年度は喫煙とオーラルフレイルの関係性の調査を実施。

<令和7年度>

- ・対象者： 第一種衛生管理者受験準備講習会受講者 124 人
- ・期 間： 令和7年7月～8月
- ・実施及び内容： Oral frailty 5-item Checklist:OF-5、喫煙アンケート、歯周病リスク検査
- ・歯周病リスク検査キット： ヘモグロビンキット サリバスター(陰性、陽性で判定)を使用
※唾液中のヘモグロビンの検出が可能な体外診断用医薬品の承認を得ている

結果： **喫煙状況別 OF-5 チェック数**

現在喫煙者(毎日吸う、時々吸う)と非喫煙者(吸わない、以前吸っていた)との比較では、オーラルフレイルの可能性を示す OF-5 チェック項目が2つ以上該当について有意差が認められた。(P<0.001)

	チェック 数0	チェック 数1	チェック 数2	チェック 数3	チェック 数4	総計	2つ以上 の人数	2つ以上 の割合
毎日吸う	11	9	8	2	0	30	10人	30.6%
時々吸う	3	2	1	0	0	0	1人	
吸わない	38	16	3	8	1	66	12人	18.2%
以前吸っていた	14	4	2	1	1	22	4人	
総計	66	31	14	11	2	124		

⇒ 日常的な喫煙がオーラルフレイルの可能性を高めることが示唆された。

結果： **喫煙状況別 歯周病リスク検査結果**

	陽性者	総計	陽性率
毎日吸う	13	30	44.4%
時々吸う	3	6	
吸わない	34	66	52.3%
以前吸っていた	12	22	
総計	62人	124人	

<歯周病リスク検査と喫煙との関連>

現在喫煙者(毎日吸う、時々吸う)が44.4%と非喫煙者(吸わない、以前吸っていた)が52.3%と喫煙者の方が陽性率の低い結果であった。

その理由として、たばこに含まれるニコチンの血管収縮作用により、歯肉の腫れや出血が押さえられるマスキング効果がある。そのため、唾液中に出た赤血球のヘモグロビンを調べるサリバスターでは陰性だった可能性がある。

実際のポケット測定や他の検査方法を用いると、喫煙者で歯周病が悪化するという結果が得られる可能性がある。

4 事業評価及び課題

(1) 市町村

- ・村では成人向けの歯科事業に取り組んでいなかったが、今回の事業がきっかけとなり、次年度も村で実施する予定となり、事業化に結びついた。
- ・陽性者で、実施から2ヵ月以内に約2割が歯科医院受診に繋がった。また、未受診者には受診勧奨の通知を行うこととし、継続したフォロー体制を整えられた。
- ・歯周病リスク検査の陽性者が9割であった。問診票から「歯ぐきの炎症等の自覚症状がある」と答えているものの「自分は歯周病だと思わない」と回答している人が多いことから、歯周病の病態等についての知識の普及啓発が必要であることが示唆された。

(2) 事業所

- ・歯周病に関する講話と簡易の歯周病リスク検査を同時に行ったため、歯周病及び口腔ケアについて啓発ができた。
- ・事後アンケートの結果より、定期的な歯科医療機関受診について動機付けの機会となった。
- ・歯周病陽性者や歯科治療の必要な者が受診に繋がっていない可能性が高く、受診につながるための効果的な保健指導や受診勧奨が必要である。
- ・後日、事業所の担当者から従業員に対し、歯科医療機関受診へのメールや声かけをした事業所もみられた。
- ・歯周病予防対策を健康経営の取組の一つとして加えるためには、事業主や事業所の健康づくり担当者、歯科専門職等の連携が必要である。また、今後は事業所の健康づくりとして、オーラルフレイル対策の必要性も示唆された。

5 令和8年度について

- ・市町村は、国の補助金活用ができることになったため、県では実施せず、実施する市町村に対し、保健福祉事務所で支援する。
- ・事業所は、国の補助金が活用予定であるが、円滑にすぐには実施には至りにくいため、各保健福祉事務所で1事業所はモデル事業所として実施する。
- ・オーラルフレイル対策を含む歯周病に対する理解を深めるため、市町村歯科保健担当者や事業所担当者に対し、研修会を開催する。